

富山県医師会災害マニュアル2025

災害時対応のエッセンス



令和7年8月
公益社団法人富山県医師会

災害マニュアル2025の発刊に向けて

富山県医師会長 村上 美也子

1995年阪神淡路大震災、2011年東日本大震災、2016年熊本地震、2007年および2024年の能登半島地震、これらの大震災は地域が崩壊するような大きな被害を出しました。この他にも多くの地震が発生しており、日本は地震列島と言われています。わが国では災害といえはまず第一に地震災害への対応が必要と考えられています。いつか突然に起こる大地震、近い将来には南海トラフ地震も予想されており十分な備えが必要です。また、近年の地球温暖化に伴い、日本のかつては穏やかであった気候も人に対して頻繁に牙を剥くようになりました。誰も知らなかった線状降水帯という言葉も各地で聞くようになり、水害に対する準備も必要です。さらには雲仙普賢岳や御嶽山などの火山活動も、立山の麓に住む私たちにとって他人事とは思えません。

災害はある日突然に予兆なく発生することを想定した対応が重要となっています。医療機関でも自宅でも、災害と対応をシミュレーションし、準備を心がけていただきたいと考えております。

今回、災害マニュアルをより実際に即したものとして改訂いたしました。災害は多種多様な状況で突然襲ってきます。このマニュアルをもとに日頃より準備を整え、発災の際にはこのマニュアルの内容を参考に、臨機応変に行動し、受診者、スタッフ、自分自身とご家族の生命と安全を守ることができるよう、行動していただきたいと考えております。

目次

富山県医師会大規模災害時医療機関初動対応	・・・ 1 P
A. 安否確認の方法	・・・ 2 P
B. 富山県医師会の対応	・・・ 4 P
・ 富山県医師会災害対策要綱	
・ 日本医師会災害医療チーム (JMAT) について	
・ 各支援班の主な役割	
・ 富山県医師会災害対策本部連絡先 及び連絡体制	
C. 災害の備え	・・・ 8 P
D. 震災発生時の対応	・・・ 13 P
E. 災害の予備知識	・・・ 20 P
F. 災害拠点病院	・・・ 27 P
おすすめアプリ情報	・・・ 28 P
G. 防災情報リソース	・・・ 29 P

富山県医師会

大規模災害時 医療機関初動対応

災害（県内で大きな揺れを感じる地震など）が発生した場合、以下のフローチャートを参考に出来ることから対応して下さい。

災害発生

○自身の安全を確保 ○ご家族の安否確認 ○スタッフの安否確認

○自身もご家族、スタッフも安全

○地震やご家族等に被害があれば適切に対処

○休診中
(時間外・休日・夜間)

○診療時間中

○診療所へ向かう

○被害のため
診療不可能

○診療の継続が
可能

○到着できない

○診療所へ到着
(診療時間中の対応へ)

○可能であれば近隣の
避難所へ向かう

○翌日は原則として初日と同じ
場所で診療にあたる
・診療状況を郡市医師会に報告
・診療所の再建に向けて整備
・避難所・救護所に派遣

○診療中であることを郡市医師
会に報告
・患者の殺到前は治療優先
・患者数が増えたらトリアージ
・在宅患者の安否確認

○トリアージ 赤の患者は病院
へ搬送

A. 安否確認の方法

大規模災害などの非常時（地震、水害、大規模火災、その他）に安否確認と情報提供を行う

1. メーリングリストによる役職員安否確認

2. Googleフォームを利用した郡市医師会及び会員への安否確認

配信の タイミング	■ 大規模災害の発生時。 ■ 地震の場合、震度5強以上の地震など、甚大な被害が発生した場合。
配信方法	■ 災害発生時、会長の指示により災害対策本部を立ち上げ、上記方法にて安否確認を行う。 ➤ あらかじめ登録したメーリングリストや公式LINEを通じて、安否確認用のURL（Google Form）を一斉配信する。 ■ 郡市医師会については、Googleフォームによる安否確認の他、医師会長の責任の下、電話やメールなどを用いて、郡市医師会単位で安否確認をおこない、県医師会災害対策本部に報告する。
配信頻度	安否・状況確認は発災直後、1日目、2日目の計3回配信。 その他、適宜情報を配信する。
配信者	■ 会長の指示のもと、担当役員および事務職員が配信を行う。 ■ 会長に連絡がつかない場合、担当役員または役員の上位者が責任者として配信指示を行う。
配信内容	■ 安否確認フォームでの質問内容（配信ごとに異なる） ・ 所属医師会 ・ 氏名 ・ 連絡先電話番号 ・ 現在の場所 ・ 身体状況 ・ 家族の安否 ・ 自宅（自院）の状況 ・ 診療の可否 ・ 医師会への参集の可否 ・ 周辺の被災情報について ・ ライフラインの状況 ・ 被災地JMATへの参加の可否

A. 安否確認の方法

2. Googleフォームを利用した郡市医師会及び会員への安否確認

大規模災害などの非常時（地震、水害、大規模火災、その他）に安否確認と情報提供を行うため、下記QRコードより現在の状況について可能な限り会員の先生方からのご回答をお願いします。

大規模災害時に
かかる安否確認①
【発災直後】



- 発災直後のため、質問内容は安否確認のみ

大規模災害時に
かかる安否確認②
【発災翌日以降】



- 2日目以降として、自院の状況や地域の状況等の項目を追加

大規模災害時に
かかる安否確認③
【発災3日目以降】



- 3日目以降として、災害支援への協力について項目を追加

B.富山県医師会の対応

富山県医師会災害対策要綱

役職員の参集	富山県医師会役職員は、以下の際に安全を確認した上で可能な限り速やかに富山県医師会館に参集する。参集が難しい場合はメーリングリストやLINEを通じて情報交換を行う。 ○県内で震度6弱以上の地震を観測した場合。 ○次のいずれかの状況により富山県医師会長が必要であると判断した場合 ①隣接県で震度6弱以上の地震の発生、または広範囲に及ぶ地域での大規模災害発生時 ②県内で大規模自然災害（大きな揺れを感じる地震など）や大規模な事故（航空機や列車事故）等が発生し、地域で甚大な被害、多数の傷病者が発生しているものと判断される場合。
災害対策本部（初動体制）	■ 設置 ・ 大規模自然災害(震度5強以上の地震や大規模水害など)や大規模事故(航空機や列車事故)等が発生し、地域で甚大な被害、多数の傷病者が発生しているものと判断される場合、会長の判断により富山県医師会災害対策本部を設置する。 ・ 富山県の要請あるいは富山県医師会長の判断で富山県医師会災害対策本部を設置し、郡市医師会及び関係機関に設置を報告する。状況により、被災地区郡市医師会に郡市医師会災害対策本部設置を要請する。 ・ 必要により連絡員を外部支援組織（富山県災害対策本部等）に派遣し、情報を把握し、関係機関との連携体制等を協議する。 ■ 構成 - 本部長：会長がこれにあたり対策本部の業務を統括する。 担当役員または関係役職員を中心に、業務を遂行する。
情報の収集と発信	富山県医師会災害対策本部は、あらゆる通信手段を用いて、県内の被害状況、郡市医師会、会員の被災状況について情報を収集し、発信する。 また、富山県医師会JMATの活動状況、他県からのJMAT等の受入状況等を派遣カレンダー等を作成し随時情報を発信する。
災害対策本部会議	本部長の指示のもと、災害対策本部会議を随時開催し、情報交換や方針の決定などを行う。 会議は役職員で構成する災害対策本部メンバーであるが、必要に応じて、各群市医師会長を加えた、災害対策本部 拡大会議を行う。

B.富山県医師会の対応

日本医師会災害医療チーム（JMAT）について

派遣要請	富山県よりJMATの派遣要請があった場合、富山県医師会災害対策本部において協議し、本部長が派遣を決定する。 収集した情報を基に、被災地の医療ニーズ、派遣先について富山県と協議のうえ、郡市医師会に派遣要請を伝え、迅速な派遣に努める。 なお、富山県からの要請を待たずしてJMATを派遣した場合は、その旨を富山県に報告する。
後方支援と 応援要請	郡市医師会JMATが派遣先で十分機能するよう、関係機関と調整を図る。必要があればJMATのための物資、資機材等を提供する。富山県と協議のうえ他県医師会JMATの応援要請が必要な場合は、日本医師会を通じて応援要請する。また、他県医師会または日本医師会から本県にJMATを派遣する申し出があった際は、富山県に報告する。富山県医師会は他県医師会JMATの受け入れ態勢を、郡市医師会並びに関係機関と共同で行う。
長期化への 対応	被災地域の医療ニーズの変化を踏まえ、継続的な支援の必要性について富山県医師会災害対策本部長並びに被災地郡市医師会災害対策本部長、県、市町村、関係団体等と協議のうえ判断する。 協議の結果、引き続きJMATによる災害支援を継続する場合は、JMATⅡへの移行も含め派遣計画を立てる。
死体検案業務	富山県または日本医師会から、死体検案業務への会員の派遣要請があった際は、富山県医師会災害対策本部で協議し富山県医師会災害対策本部長が検案業務のためのJMATの派遣を決定する。その際、富山県警察医会とも連携を密にする。
JMAT撤退 と被災地域の 復興支援	被災地域の医療ニーズ、また被災地域の医療体制の復興状況を踏まえ、JMATの撤退時期について被災地域郡市医師会災害対策本部、県、市町村、関係団体等と協議のうえ判断する。また撤退時期は速やかに日本医師会に連絡する。 なお、被災地域の医療体制の復興状況を鑑みて、JMATの撤退時期を判断する。

B.富山県医師会の対応

各支援班の主な役割

総務・庶務班	・ 災害対策本部の運営、関係役員への連絡 ・ 災害対策本部会議の運営 ・ 郡市医師会との連絡調整 ・ J M A T派遣調整及び募集（会員・関係団体等）
救護班	・ J M A T派遣計画の作成（チーム調整・スケジュール管理） ・ J M A T隊員への情報提供（事前打合せ等） ・ 会館施設管理
資材班	・ 災害用備品の調達、必要により現地への配送 ・ J M A T派遣用医療材料、医薬品、資機材、備品等の調達・準備 ・ J M A T活動に関わる宿泊施設・利用車両の確保、等
情報班	・ 災害における現地被災状況、道路交通情報等の収集 ・ 災害対策本部からの情報発信（SNS・HP等） ・ 関係機関並びに各支援団体と県医師会災害対策本部との連絡調整 ※必要により、県災害対策本部会議や郡市医師会災害対策本部に連絡員を派遣

■ 富山県医師会災害対策本部連絡先

【参考】役職員参集基準

以下の場合、富山県医師会役職員は、安全を確認した上で可能な限り速やかに富山県医師会館に参集する。

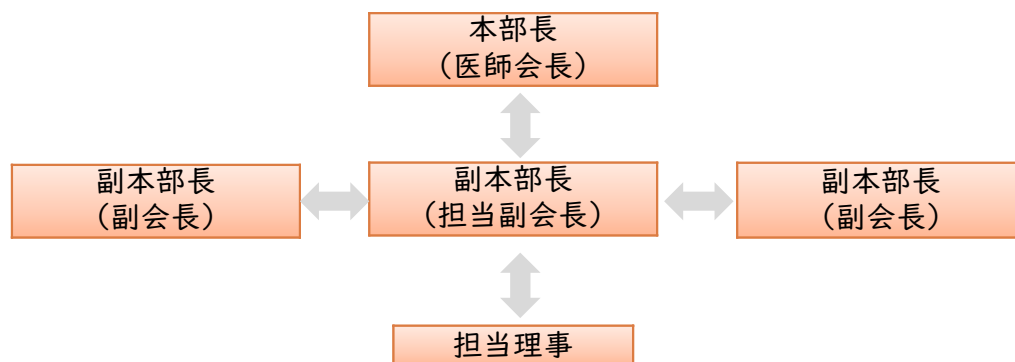
○県内で震度６弱以上の地震を観測した場合。

○次のいずれか状況により富山県医師会会長が必要であると判断した場合

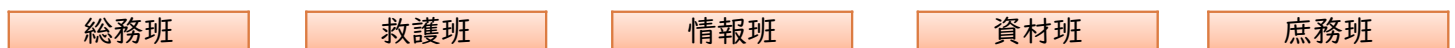
- ①隣接県で震度６弱以上の地震の発生、または広範囲に及ぶ地域での大規模災害発生時
- ②県内で大規模自然災害（大きな揺れを感じる地震など）や大規模な事故（航空機や列車事故）等が発生し、地域で甚大な被害、多数の傷病者が発生しているものと判断される場合。

代表ＴＥＬ	076-429-4466
代表ＦＡＸ	076-429-6788
代表メールアドレス	ishikai@toyama.med.or.jp
ホームページＵＲＬ	http://www.toyama.med.or.jp

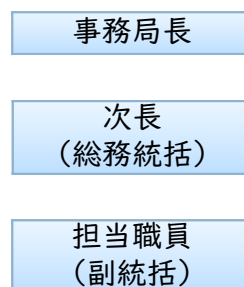
■ 富山県医師会災害対策本部連絡体制（組織図）



○役員は参集可能な理事、監事によりそれぞれ総務班・救護班・情報班・資材班・庶務班に分かれて対応する。



○職員は参集可能な者より本部に集合し、各災害支援業務にあたる。



C.災害への備え 10のポイント

1. 緊急時対応計画の策定
2. 安全な避難経路の確保
3. 医療機器の災害対策
4. 患者リストの管理及び患者移送計画の準備
5. 非常用電源の確保
6. 備蓄(医薬品・消耗品/水や食料)
7. 定期的な防災訓練
8. 外部との協力体制
9. 情報収集・発信体制
10. 外来患者対応および安全な診療環境の確保

■ キキクルの活用について

気象庁では、災害の危険度を「早い段階から」「地域をより絞って」情報を伝えるため、浸水や洪水、土砂災害の危険度を5段階※1で表示する「キキクル※2（大雨・洪水警報の危険度分布）」を発表しています。何も起きていない平時からプッシュ型通知サービスを登録しておき、いざという時の避難や備えの判断に活かしてください。

自院及び周辺地域の情報をキキクル等のハザードマップで確認！

【気象庁HP】

※1. 詳細は「E.災害の予備知識」項目○ページ参照。

※2. キキクルは気象庁ホームページから



C.災害への備え

1. 緊急時対応計画の策定

災害発生時の混乱を最小限に抑え、迅速かつ効果的な対応を実現するための基本方針を明確にする。まず、地域のリスクアセスメントを実施し、地震、火災、洪水など想定される災害を明確化する。その上でハザードマップや避難経路、避難所の位置を確認し、避難ルールを策定する。また、災害対応マニュアルを作成し、全職員に周知徹底を図り、役割分担を明確化することで、混乱を防ぐ。さらに、緊急連絡網を整備し、医療資材や食料、水、発電機、衛生用品などの必要物資をリスト化して定期的に更新する。これらの計画は訓練やシミュレーションを通じて検証し、問題点を改善する。

2. 安全な避難経路の確保

安全な避難経路の確保は、迅速かつ安全な避難に欠かせない。建物内の避難ルートは定期的に点検し、非常口や廊下、階段に障害物がないよう整理整頓を徹底する。また、棚や家具が倒れて避難経路を塞ぐことを防ぐため、適切に固定する。さらに、地震や強風による窓ガラスの飛散を防止するため、窓に飛散防止シートを貼ることが推奨される。これらの対策を講じることで、安全な避難経路を維持し、二次被害を最小限に抑えることが可能となる。

3. 医療機器の災害対策

医療機器の災害対策は、安全で確実な医療提供を維持するために必要不可欠である。地震や強風で倒れたり動いたりしないよう、耐震金具やストラップを使用してしっかりと固定する。また、移動可能な医療機器については、災害時に衝撃や破損を防ぐため、専用の保護ケースや緩衝材を活用することが推奨される。さらに、電源が必要な機器については、停電時にも使用できるように非常用電源の確保や予備バッテリーの準備を行うことが求められる。定期的な点検と訓練を通じて、機器が正常に作動することを確認し、災害への備えを強化する。

キキクルなどを参考に患者さんや機器の
早めの垂直移動の対応を！

4. 患者リストの管理及び患者移送計画の準備

災害時に迅速かつ安全な対応を行うため、患者リストの管理と移送計画を適切に整備する。患者の安否確認を迅速に行うために、紙媒体と電子データの両方で患者情報を管理し、常に最新の状態に更新する。また、移送計画には、優先順位や必要な医療機器、移送手段、支援が必要な人員を具体的に記載する。さらに、計画の実効性を確保するため、定期的な訓練を実施し、関係者間で役割分担を明確にしておくことで、混乱を最小限に抑えられる。

5. 非常用電源の確保

停電に備え、発電機やバッテリーを整備し、定期的な点検を実施して正常に動作することを確認する。特に、燃料の備蓄量や劣化状態を確認し、必要に応じて補充や交換を行う。さらに、重要機器への電力供給を優先するための手順を策定し、関係者全員に周知する。また、緊急時に備えて発電機の操作訓練を定期的に行い、確実に習得しておく。これらの対策を通じて、停電時にも迅速かつ安全に対応できる体制の構築が可能である。

6. 備蓄(医薬品・消耗品/水や食料)

まず、必要となる医薬品や衛生用品（包帯、消毒液、マスクなど）を一定量確保し、使用期限を確認しながら定期的に補充する。飲料水や食料については、職員や患者全員が数日間安全に過ごせる量を備蓄する。特に、ローリングストック方式を採用し、日常的に使用しながら備蓄を切らさない仕組みを整えると効果的である。また、停電時でも使用可能な発電機やバッテリーを点検し、冷蔵保存が必要な医薬品の保管に備えることも必要である。

7. 定期的な防災訓練

訓練では、実際の災害を想定した避難訓練やシミュレーションを行い、職員や患者全員が避難経路や手順を理解し、安全に行動できるよう訓練を重ねる。また、停電時に対応可能な発電機やバッテリーの操作訓練を行い、機器の使用方法やトラブル発生時の対応を確認する。さらに、災害時に必要な医薬品や消耗品、水や食料の取り扱いや分配の手順もシミュレーションし、混乱を最小限に抑える体制を整える。これにより、全員が災害に備えた意識と行動力を高めることができる。

8. 外部との協力体制

地域の防災機関や他医療機関、行政機関との連携を強化する。まず、地域防災機関との定期的な情報共有を行い、災害時の対応方針や支援内容を明確化する。また、近隣医療機関との協力体制を確立し、医療資源や人員の相互支援を可能にする仕組みを整備する。停電時に対応可能な発電機やバッテリーの供給についても、地域内での共有体制を検討することが有効である。さらに、地域住民との連携を深め、避難所の運営や物資の分配など、災害時に必要な活動を円滑に行える環境を構築する。

9. 情報収集・発信体制

防災アプリなどを活用して、リアルタイムで災害状況や予測情報を把握する体制を整える。また、停電時にも対応可能な衛星電話や無線機を準備し、通信手段を確保する。これにより、外部機関や地域住民との連絡を維持し、必要な情報を迅速に共有することが可能となる。さらに、災害時には職員や患者への情報伝達を確実にを行うため、館内放送や掲示板の活用、重要情報を即時周知できる仕組みを構築する。

10. 外来患者対応および安全な診療環境の確保

災害時にも外来診療を安全に継続するための環境整備が重要である。まず、停電に備えた発電機やバッテリーの点検・整備を定期的に行い、診療機器や照明が使用可能な状態を維持する。また、災害発生時には外来患者への迅速な案内が求められるため、待機場所の確保や案内手順を明確化し、職員に周知する。さらに、診療エリアの安全性を確保するため、建物や設備の点検を徹底し、必要な修繕や補強を行う。

C.災害への備え 10のポイント

1 緊急時対応計画の策定



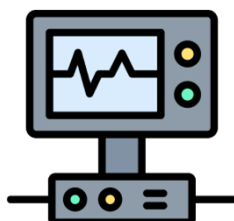
- ハザードマップの確認
- 災害対応マニュアルの確認および周知徹底
- 災害時に全員が迅速に行動できるよう、担当業務の明確化
- 緊急連絡網の整備

2 安全な避難経路の確保



- 建物内の避難ルートを定期的に点検・更新し、障害物がないようにする
- 棚が倒れないか確認・固定
- 窓ガラスへのシート貼り

3 医療機器の災害対策



- 医療機器の固定や、移動可能なものの保護対策を行う

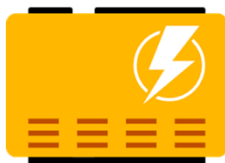
キキクルなどを参考に患者さんや機器の早めの垂直移動の対応を！

4 患者リストの管理及び患者移送計画の準備



- 患者の安否確認が迅速に行えるよう、紙および電子データで管理する
- 必要に応じて患者を安全な場所へ移送する計画を策定する

5 非常用電源の確保



- 停電時に対応可能な発電機やバッテリーの点検・整備を行う

6

備蓄



- 水や食料の備蓄 医薬品・消耗品

災害時に必要となる医薬品、消耗品、衛生用品を一定量確保する。職員や患者用の飲料水と食料を数日分用意する。ローリングストック方式

7

定期的な防災訓練



- 実際の災害を想定した避難訓練やシミュレーション訓練を行う。

8

外部との協力体制



- 地域の防災機関や他医療機関、地域との連携を確立する。

9

情報収集・発信体制



- 災害時に正確な情報を収集し、職員や患者に迅速に伝達する手段を確保する。
- キキクル（気象庁）などの防災アプリを活用、
- 衛生電話や無線機

10

外来患者対応 および安全な 診療環境の確保



- 災害後も安全に診療を継続できる環境整備を行う。
- 災害発生時の外来患者への案内方法や待機場所を確保する。
- 災害による損害に備えて保険や財源の確保を確認する。

D.震災発生時の対応 15のポイント

安全確保	1. 安全の確認と確保
	2. 火災の有無を確認
	3. 避難指示の徹底
	4. 建物被害の即時点検
	5. 非常用電源の稼働
患者対応	6. 生命に危険がある患者の優先対応
	7. 医療機器の安定化
	8. 患者の移動支援
	9. 必要最小限の診療継続
	10. 外来患者や来院者の対応
医療資源と情報管理	11. 医薬品の確保と管理
	12. 飲料水と食料の配布
	13. 情報収集と共有
	14. 緊急連絡網の活用
	15. 応援要請

D.震災発生時の対応

安全確保

1.安全の確認と確保

災害発生時には、患者やスタッフ、自分自身の安全を最優先に確認する。負傷者がいる場合、迅速に応急処置を行い、必要に応じて適切な医療支援を手配する。建物や設備の損傷状況を確認し、安全性が確保されていない場合は、危険区域を特定し立ち入りを制限する。避難経路や避難場所の安全も点検し、必要であれば再設定を行う。これらの確認と対応を迅速かつ確実に行うことで、災害時の混乱や二次被害を防ぎ、安全な環境を確保することが可能となる。

2.火災の有無を確認

まず、建物内外でガス漏れや発火箇所がないかを注意深く点検し、煙や異臭がする場合は直ちに火災の危険を想定する。発火箇所が確認された場合には、消火器やスプリンクラーを使用して初期消火を試みるとともに、速やかに消防に通報する。ガス漏れが疑われる場合には、火気を使用せず、ガスの元栓を閉めて換気を行う。また、火災が広がる恐れがある場合は、患者やスタッフを安全な場所に避難させる手順を確実に実行する。

3.避難指示の徹底

災害発生時には、建物の安全性を迅速に確認し、必要に応じて患者やスタッフに適切な避難指示を徹底する。避難ルートや避難場所の安全性を事前に確認し、状況に応じて最適な指示を行う。避難の際には、患者の状態に応じたサポートを提供し、車椅子や担架を用いて安全かつ迅速に移動させる。また、避難指示を明確に伝えるために館内放送や拡声器を活用し、全員が冷静に行動できるよう努める。避難完了後は点呼を行い、全員の無事を確認することでさらなる混乱を防ぐことができる。

4.建物被害の即時点検

災害発生時には、建物の安全性を迅速に点検する。まず、建物内外を確認し、崩壊や亀裂、火災の危険がないかをチェックする。特に、耐震構造部分や外壁、天井、窓ガラスの破損箇所を注意深く点検することが重要である。火災の危険が疑われる場合は、ガス漏れや電気系統の異常も確認し、必要に応じて電源を遮断する。危険箇所が発見された場合は、直ちに立ち入りを制限し、避難指示を適切に行う。安全が確認されるまでの間は、必要最低限の活動を優先し、患者や職員の安全を確保する体制を整える。これにより、二次災害を防ぐことが可能となる。

5.非常用電源の稼働

停電が発生した場合、速やかに発電機を起動し、重要な医療機器や照明、通信機器へ安定した電力を供給する体制を整える。また、事前に発電機やバッテリーの点検・整備を定期的に行い、非常時に確実に稼働することを確認する。燃料の備蓄量も定期的に確認し、必要に応じて補充を行う。さらに、非常用電源の操作手順を職員に周知し、訓練を通じて正確な運用ができるよう準備する。

患者対応

6.生命に危険がある患者の優先対応

災害時には、生命に危険がある重症患者への対応を最優先とする。まず、迅速に患者の状態を確認し、緊急度に応じてトリアージを実施する。重症患者には必要な応急処置を即座に行い、医療機器やスタッフを優先的に配分してケアを行う。また、必要に応じて安全な場所へ移送し、継続的な治療が可能な環境を整えることが重要である。他の患者やスタッフにも状況を適切に説明し、混乱を防ぐとともに、医療リソースを効率的に活用する。

7.医療機器の安定化

停電時には、電気が必要な医療機器を迅速に非常用電源や発電機に接続し、継続して使用できる状態を確保する。機器の優先順位をあらかじめ決めておき、生命維持装置や診療に不可欠な装置を最優先で対応する。非常用電源の点検・整備を定期的に行い、トラブル時には迅速に対応できるようマニュアルを整備する。また、医療機器の移動可能性を考慮し、必要に応じて安全な場所に移動させる準備を行う。

8.患者の移動支援

災害発生時には、自力で避難できない患者を優先的に安全な場所へ移送する。まず、患者の状況を迅速に把握し、移動が必要な患者を特定する。車椅子や担架を活用し、医療スタッフが付き添いながら安全な避難を行う。また、移動ルートの安全性を確認し、可能な限り短時間で避難が完了するよう計画することが重要である。避難完了後は、患者の体調を再確認し、必要な医療ケアを速やかに提供する。職員間で役割を分担し、事前に訓練を実施することで、スムーズな移動支援を実現し、患者の安全を確保する体制を構築する。

9.必要最小限の診療継続

患者の緊急度を迅速に判断し、トリアージを実施することで、限られた資源を最も必要とする患者に優先的に提供する。医療機器や薬品の使用状況を管理し、非常用電源や備蓄品を適切に分配する体制を整える。診療エリアを安全な場所に集約し、医療スタッフの配置を最適化することで効率的な対応を可能にする。また、診療に必要な最低限の記録を維持し、混乱を防ぎつつ業務を継続する。

10.外来患者や来院者の対応

災害発生時には、外来患者やその家族、その他の来院者を迅速かつ安全に誘導する。まず、館内放送や職員の指示を通じて、避難ルートや安全な待機場所を明確に案内する。また、外来患者の中で治療が必要な場合には、優先順位を判断し、必要に応じて応急処置や診療を提供する。来院者が冷静に行動できるよう、状況を適切に説明し、不安を軽減する対応を心掛ける。職員間で役割分担を明確にし、混乱を最小限に抑える体制を整えることで、全体の安全を確保しながら円滑な対応を実現することが求められる。

医療資源と情報管理

11.医薬品の確保と管理

災害時には、医薬品を適切に確保し、効率的に管理する。また、患者の状態に応じて必要な薬品を優先的に配布・使用し、限られた資源を有効に活用する。使用期限や在庫状況を随時確認し、医薬品が不足しないように備蓄量を定期的に補充することも必要である。職員間で分配方法を共有し、スムーズな対応ができる体制を整えることで、患者の治療を確実に支えることが可能となる。

12.飲料水と食料の配布

災害発生時には、職員と患者に必要な飲料水と食料を迅速かつ適切に配布する。まず、事前に確保している備蓄品の場所を確認し、優先順位を考慮して配布を開始する。患者の健康状態や年齢に応じた配慮を行い、特に体力の弱い人や医療ケアが必要な人には優先的に提供する。また、配布手順を職員間で明確にし、混乱を防ぐために全員が統一した行動を取る。配布中に備蓄の状況を随時確認し、必要に応じて追加手配を検討することで、安定的な供給を確保する。

13.情報収集と共有

災害時には、正確で最新の情報を迅速に収集し、職員と患者に適切に共有する。ラジオや防災無線、防災アプリを活用して、気象情報や避難指示、被害状況を随時確認する。入手した情報を館内放送や掲示板を通じて職員と患者に分かりやすく伝え、行動指針を明確に示す。また、混乱を防ぐため、情報伝達の手順を事前に策定し、職員間で共有しておく。通信が遮断された場合には、衛星電話や無線機など代替手段を活用し、外部機関とも連携を保つ。

14.緊急連絡網の活用

災害発生時には、緊急連絡網を迅速かつ的確に活用し、関係機関や自治体と連絡を取る。まず、病院内の状況や必要な支援内容を明確に把握し、応援や物資の要請を行う。停電や通信障害に備え、衛星電話や無線機などの代替手段を活用して連絡を確保する。また、患者や職員の安全を守るために、自治体や地域防災機関と連携し、必要な情報を共有する。連絡網の手順を職員間で事前に周知し、災害発生時にスムーズに対応できる体制を整えておくことが求められる。

15.応援要請

災害発生時には、他医療機関や行政への迅速な応援要請が必要である。まず、病院内の状況を把握し、必要な医薬品や医療機器、人員の不足状況を明確にする。次に、緊急連絡網を活用して他医療機関や行政機関に連絡を取り、具体的な支援内容を伝える。追加の医薬品や資材の提供、医療スタッフの派遣などを要請する際は、優先順位を考慮し、緊急性の高い事項から依頼する。通信手段が限られる場合には、衛星電話や無線機などの代替手段を活用し、連絡を確実に行う。事前に関係機関との連携体制を構築し、円滑な応援要請が可能な仕組みを整えることで、災害時の対応力を強化することができる。

D.震災発生時の対応

安全確保

15のポイント

1 安全の確認と確保



患者やスタッフ、自分自身の安全を迅速に確認し、負傷者がいれば応急処置を行う

2 火災の有無を確認



ガス漏れや発火箇所がないか確認し、必要ならば即座に消火活動を行う

3 避難指示の徹底



建物の安全性を確認し、安全な場所への避難を指示する

4 建物被害の即時点検



崩壊や火災の危険がないか、建物内外を迅速に点検する

5 非常用電源の稼働



停電時に備え、非常用電源や発電機を速やかに起動させる

患者対応

6

生命に危険が
ある患者の
優先対応



重症患者のケアを最優先し、
必要に応じて応急処置を行う

7

医療機器
の安定化



電気が必要な医療機器を
非常用電源に接続し、
安定稼働を確保する

8

患者の
移動支援



自力で避難できない患者を
優先的に安全な場所へ移送
する

9

必要最小限の
診療継続



医療資源を適切に分配し、
災害対応しながら診療を
継続する

10

外来患者や
来院者の対応



外来患者やその家族の誘導、
必要時には治療を提供する

医療資源と情報管理

11

医薬品の
確保と管理



破損を防ぎながら、必要な薬品
を優先的に配布・使用する

12

飲料水と食料
の配布



職員と患者に必要な飲料水と
食料を確保し、適切に配布する

13

情報収集
と共有



ラジオや防災無線を活用して
最新情報を入手し、職員と
患者に共有する

14

緊急連絡網
の活用



関係機関や自治体と連絡を取り、
応援や物資の要請を行う

15

応援要請

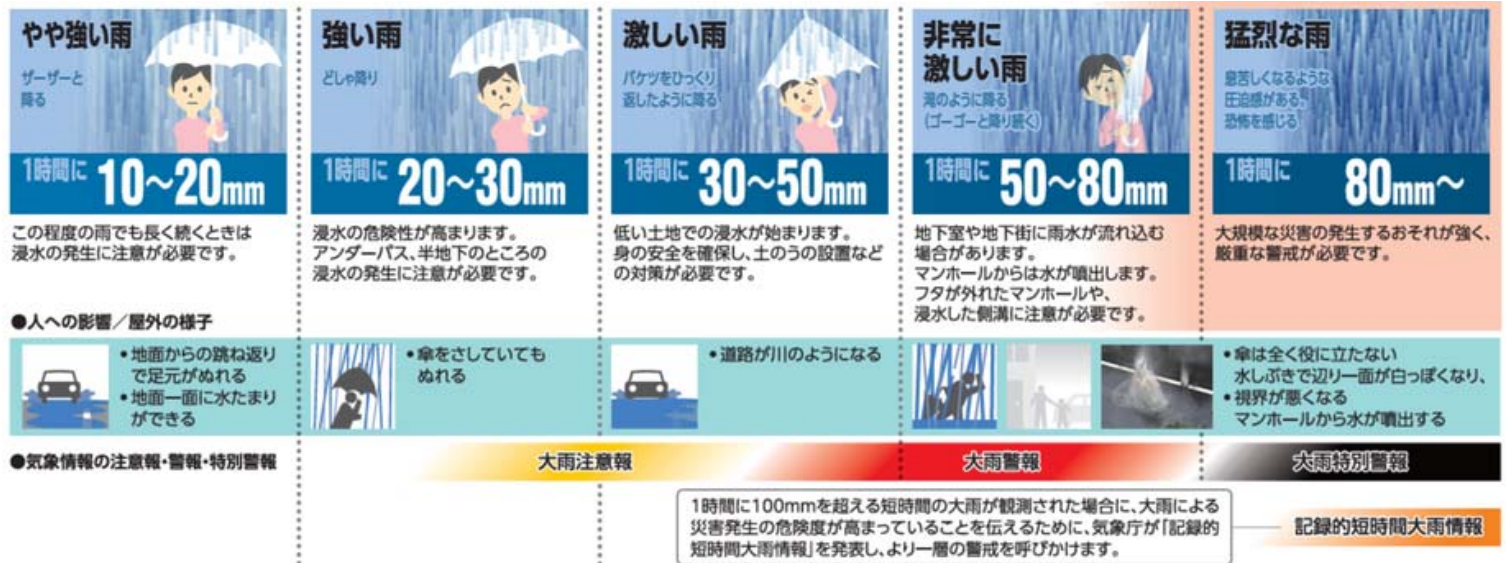


他医療機関や行政に応援を
要請し、追加医薬品や人員
の支援を受ける

E.災害の予備知識

■ 風水害

雨の強さと降水量



雨の強さや降水量は、気象予報や日常生活において非常に重要な情報です。以下に、雨の強さの分類、降水量の単位、降水確率の意味などについて詳しく解説します。

雨の強さの分類

雨の強さは、一般的に以下のように分類される

- やや強い雨: 1時間あたりの降水量が10~20mm程度。
 - 傘をさしても足元が濡れやすい。
- 強い雨: 1時間あたりの降水量が20~30mm程度。
 - 傘をさしても濡れてしまう。
- 激しい雨: 1時間あたりの降水量が30~50mm程度。
 - 傘は役に立たず、視界も悪くなる。
- 非常に激しい雨: 1時間あたりの降水量が50~80mm程度。
非常に危険な状態。外出は控え、安全な場所で過ごすことが大切。

特に、1時間に80mm以上の雨が降る場合は、非常に危険な状況とされ、厳重な警戒が必要

- 降水量が増えるほど、雨は激しくなり、災害が起こりやすくなる。
- 天気予報などで「1時間に50mmの雨が降る」といった情報が出たら、猛烈な雨が降る可能性があるため、十分に注意が必要。

平均 風速 (m/s)	人への影響	屋外・樹木の様子	建造物
10～15	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。 	樹木全体や電線が揺れ始める。道路の吹流しが水平になる。 	樋（とい）が揺れ始める。 
15～20	風に向かって歩けない。転倒する人も出る。高所作業は危険。 	電線が鳴り、看板やトタンが外れることがある。 	屋根瓦や雨戸が揺れる。 
20～25	何かにつかまらなると立てない。飛来物による負傷の可能性がある。 	細い木が折れる。根が浅い木が倒れ始める。看板が飛散する。 	屋根材が飛散。固定されていないプレハブやビニールハウスが破れる。 
25～30	屋外行動が極めて危険。	樹木が広範囲で倒れる。道路標識が傾く。	金属屋根がめくれ、仮設足場が崩れる。 
30～		樹木・電柱・街灯が倒れる。ブロック壁が崩れる。 	外装材が飛散し下地材が露出する。 

■ 土砂災害の種類と主な前兆現象

発生のおきみや土砂の動き方から、大きく「土石流」「地すべり」「がけ崩れ」の3つに分類できる。土砂災害の多くは、大雨や雪どけ、地震などがきっかけで起こり、何らかの前兆現象が現れることがある。

土石流



大雨によって山の斜面が崩れ、その土砂が谷にあった土砂と水に混じって、麓へ流される現象。

■ 主な前兆現象

- ・ 山鳴りがする
- ・ 急に川の水が濁り、流木が混ざり始める
- ・ 腐った土の匂いがする
- ・ 降雨が続くのに川の水位が下がる
- ・ 立木が裂ける音や石がぶつかり合う音が聞こえる



地すべり



斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象。

■ 主な前兆現象

- ・ 地面がひび割れ・陥没
- ・ がけや斜面から水が噴き出す
- ・ 井戸や沢の水が濁る
- ・ 地鳴り・山鳴りがする
- ・ 樹木が傾く
- ・ 亀裂や段差が発生



がけ崩れ



急な斜面に、雨水や雪解け水の浸透や地震等でゆるみ、突然、崩れ落ちる現象。崩れ落ちるまでの時間ごく短い。

■ 主な前兆現象

- ・ がけにひび割れができる
- ・ 小石がパラパラと落ちてくる
- ・ がけから水が湧き出る
- ・ 湧き水が止まる・濁る
- ・ 地鳴りがする



■ 火災が発生したら

1. 早く知らせる！

屋内で火が出たらまずはドアを開けて逃げ道を作り「火事だあー」と大声で叫ぶ、もしくはやかんなどを叩いて周囲に火事を知らせる。さらに、火災報知器のボタンを押して警報を鳴らす。



2. 早く消す！

小さな火であれば、消火器にて消火を試みる。

消火器を使用する際は、以下の手順で：

- Pull（ピンを引く）
- Aim（火の根元を狙う）
- Squeeze（レバーを握る）
- Sweep（左右に動かす）



消火器がない場合、ぬらしたタオルや布をかぶせる。

- バスタオルやシーツなど大きめのものが有効
- ぬらしたら水がたれない程度に絞る
- 目的は「窒息消火」全体を覆うように
- 複数枚かぶせると効果的
- 火が消えたと思ってもすぐにとらない



3. 避難は早めに！

目の高さや背丈を超えたら避難優先

炎が天井まで達すると消火は困難とされている。自分の目の高さや背丈を超えるようなら避難を優先。避難の際はドアを閉めると延焼を防ぎやすい。

煙が部屋や廊下に充満してきた場合は、ハンカチやタオルなどで口・鼻をしっかりと覆い、煙を吸わないよう姿勢を低くして避難する。

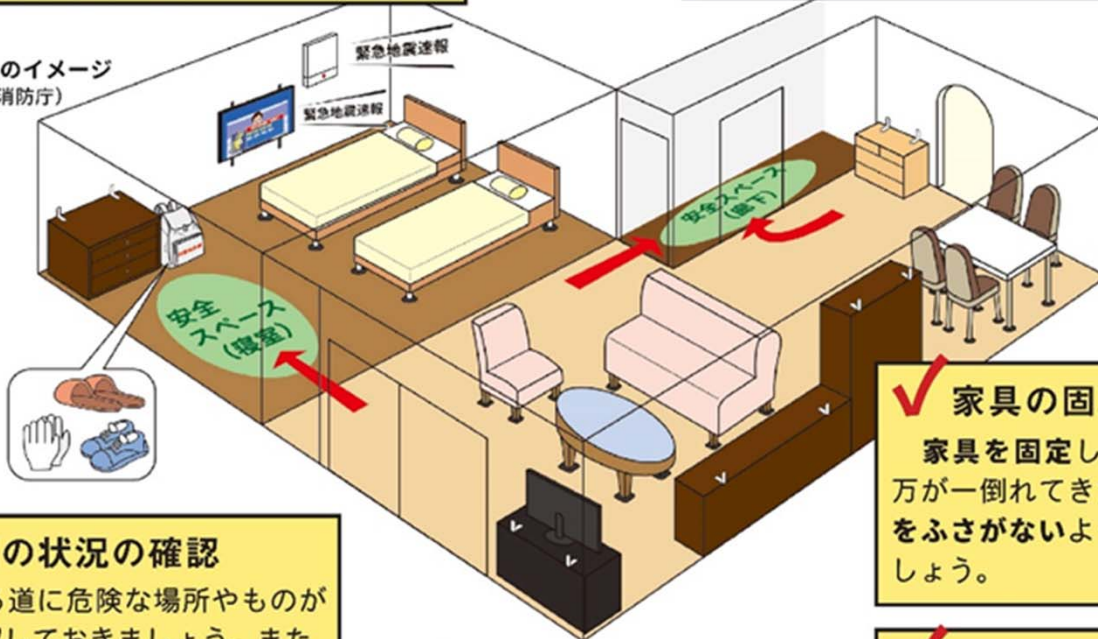


■ 地震から身を守る行動の具体例

✓ **備蓄・非常持ち出し品の準備**
非常時の水・食料の備蓄や、非常用持ち出し品を準備しておきましょう。

✓ **安全スペースの確保**
室内になるべくものを置かない「安全スペース」(ものが落ちてこない・倒れてこない・移動しない空間)を作っておきましょう。

室内の備えのイメージ
(資料：東京消防庁)



✓ **周囲の状況の確認**
普段通る道に危険な場所やものがないか確認しておきましょう。また、地盤の弱い場所や地震によって地盤の緩んだ場所では、降雨などにより土砂災害が発生することがあります。前もって周囲の状況を確認しておきましょう。

✓ **連絡手段の確認**
地震が発生したときの連絡手段や集合場所について、あらかじめ**家庭で話し合っ**ておきましょう。

✓ **家具の固定**
家具を固定しましょう。また、万が一倒れてきた場合でも、**通路をふさが**ないような配置を考えましょう。

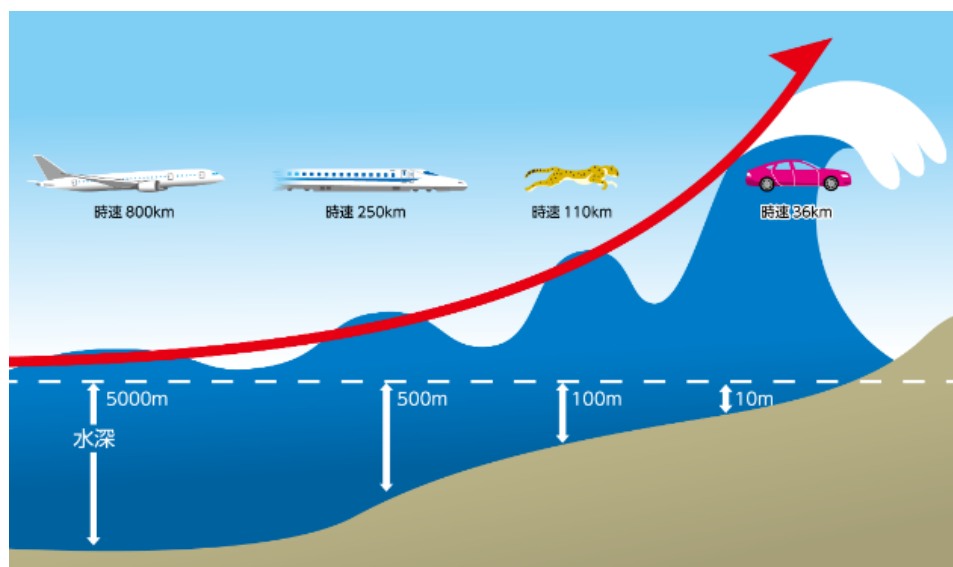
✓ **訓練に参加しよう**
本当に地震が起こったときに、あわてずに身の安全を図ることができますか？**積極的に訓練**に参加しましょう。

地震に備える

地震の揺れは突然襲ってきます。いつ揺れに見舞われても身を守ることができるように、屋内・屋外問わず周囲の状況や避難経路を確認し、揺れに備えましょう。

寝ている時に地震が起きると、無防備になりやすいので最も危険なタイミングの一つです。寝室は一日のおよそ3分の1程度の時間を過ごす場所なので、まずは寝室には大きな家具を置かない、もし置くとしても、きちんと固定するか、倒れてきても大丈夫な向きに配置することが大切です。マンションなどの場合は、例えば、建物自体が長方形型になっていたら、その短い方の辺に対して揺れやすくなるなどの揺れ方の特徴がありますので、建物がどちらの方向に揺れやすいかを事前にチェックしておくこともおすすめします。その上で、家具類がどの方向に倒れるかを想定して、ドアが塞がらないようにするなど配置を考え直したり、家具類の固定など次の対策へとステップを進めていきましょう。

■ 津波警報・注意報の種類

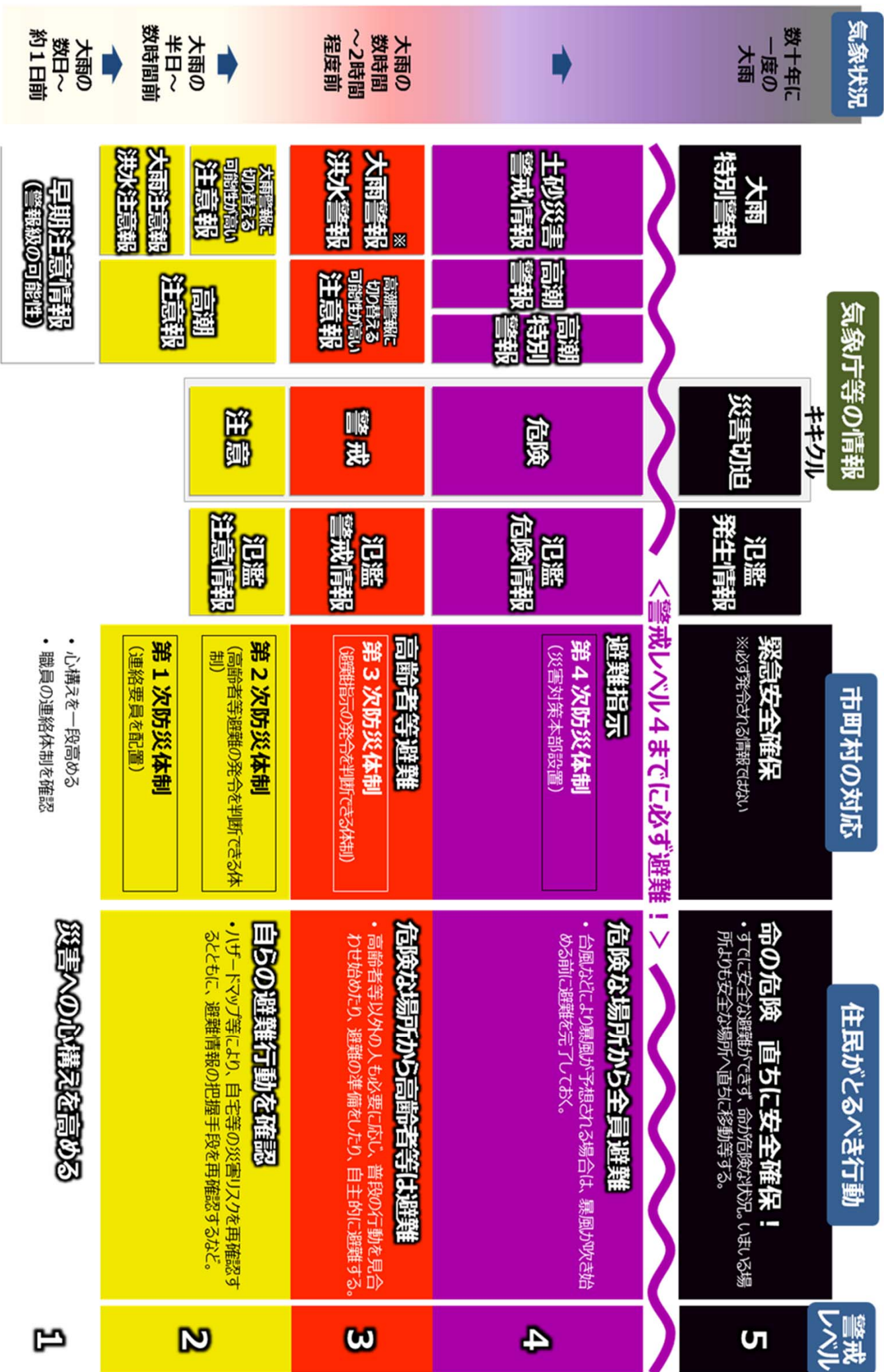


津波は、海が深いほど速く伝わる性質があり、沖合ではジェット機に匹敵する速さで伝わります。逆に、水深が浅くなるほど速度が遅くなるため、津波が陸地に近づくにつれ、減速した波の前方部に後方部が追いつくことで、波高が高くなります。

■ 津波警報・注意報の分類と、とるべき行動

種類	発表基準	発表される津波の高さ		想定される被害と取るべき行動
		数値での発表 (予想される津波の高さ区分)	巨大地震の場合の発表	
大津波警報	予想される津波の最大波の高さが高いところで3mを超える場合。	10m超 (10m<予想される津波の最大波の高さ)	巨大	巨大な津波が襲い、木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。沿岸部や川沿いにいる人は、 ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。
		10m (5m<予想される津波の最大波の高さ≤10m)		
		5m (3m<予想される津波の最大波の高さ≤5m)		
津波警報	予想される津波の最大波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合。	3m (1m<予想される津波の最大波の高さ≤3m)	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。沿岸部や川沿いにいる人は、 ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。
津波注意報	予想される津波の最大波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合。	1m (0.2m≤予想される津波の最大波の高さ≤1m)	(表記しない)	海の中では人は速い流れに巻き込まれ、また、養殖いかだなどが流失し小型船舶が転覆します。 海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください。

図.土砂災害・洪水・高潮によって命に危険が及び避難行動が必要となる
タイミング（判断基準）とエリア（対象区域）の考え方



※夜間～翌日早朝に大雨警戒(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3（高齢者等避難）に相当します。

「避難情報に関するガイドライン」（内閣府）に基づき気象庁において作成

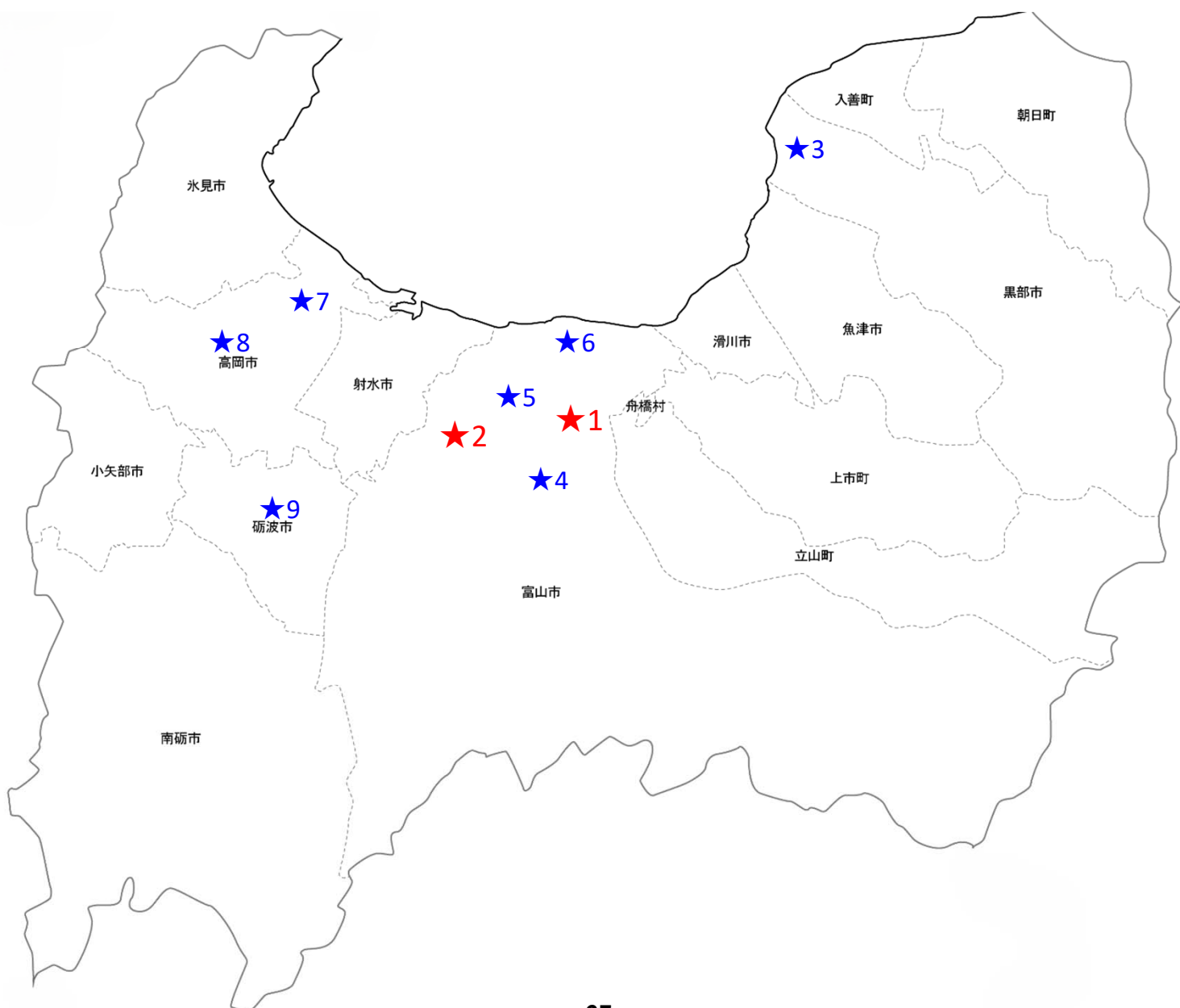
F.県内の災害拠点病院

災害発生時、被災地からの患者受け入れ、医療救護班の派遣、地域医療機関への応急資器材の貸出し等被災者の救命・救急治療を行う。

◆ 基幹災害拠点病院 富山県立中央病院★1 富山大学附属病院★2

◆ 地域災害拠点病院

新川医療圏：黒部市民病院	★3
富山医療圏：富山市立富山市民病院	★4
富山赤十字病院	★5
富山県済生会富山病院	★6
高岡医療圏：高岡市民病院	★7
厚生連高岡病院	★8
砺波医療圏：市立砺波総合病院	★9



おすすめの防災アプリ情報



■ 防災アプリ情報（富山県HP）

- Uni-Voice Blindアプリ（耳で聴くハザードマップ）
- 逃げなきゃコール
- Yahoo!防災速報
- 被害予測・防災cmap



■ Yahoo! 防災速報

Yahoo! 防災速報アプリは、ユーザーに緊急地震速報や豪雨予報、津波予報などの防災情報を迅速に提供。

設定した地域や現在地に基づいて、重要な災害情報をプッシュ通知で受け取ることができる。



■ NHK防災アプリ

- 災害情報の提供: 災害情報をリアルタイムで受け取ることができる。
- 地域登録機能: 居住地を最大3箇所まで登録でき、登録地域の災害・避難所情報を受け取ることができる。
- 河川情報の確認: 河川の水位情報や河川カメラ映像を確認できる。
- ハザードマップの利用: 洪水や土砂災害のリスクを示すハザードマップを確認できる。
- 通知設定: 受け取りたい情報を選択できる。



■ みたちょ

一般社団法人 全国防災共助協会が、提供するARアプリ
被災時に、AR技術で最寄りの避難所まで案内してくれる。見慣れぬ土地でも安心して使え、オフラインでも使用可能である。
サイト内よりダウンロードサイトへ移動。

フォローをおすすめのX（エックス）アカウント

- 首相官邸（災害・危機管理情報）
- 総務省消防庁
- 防衛省・自衛隊
- 気象庁
- NHKニュース

◆ 富山防災WEB（富山県HP）



県内の防災に関する各種情報を掲載し関係機関へのリンクによる情報提供を行っている。

【気象情報、土砂災害・河川情報、公共交通情報ライフライン情報、避難所情報、洪水ハザードマップ、土砂災害ハザードマップ】

◆ 気象庁HP



具体的な危険度を理解しやすくするために情報は、地域ごとに発表され、市町村単位で提供される。

自然現象から身を守るための知識や行動についての情報が提供されている。

◆ 国土交通省 防災ポータル



被害想定・身の守り方・リアルタイム情報・交通・物流情報・被災者支援情報・安否情報など、必要な情報にアクセスしやすいように設計されている。

迅速な情報収集が生死を分けることもあるため、サイトの利用方法を理解しておくことが重要。

◆ 首相官邸HP：防災の手引き ～いのちとくらしをまもるために～



災害から命を守るため、災害の種類と対策・自助の重要性・情報の提供・教育と啓発などの重要な情報を提供している。

国民一人ひとりが災害に対する心構えや知識を持ち、適切な備えをすることの重要性を強調している。

さいごにワンポイントメッセージ

- 備蓄（特に水・食料）は大切。
日ごろから、ローリングストックで工夫を
- いざという時に、日常生活品を防災グッズに活用する知恵をつけよう
- スマホは大切なサバイバルツール。電源確保の備えを
- 屋内に「安全地帯」を設けよう
- 災害情報サイトやアプリを日ごろから活用し、情報収集のスキルアップに努めましょう